

---

# SM物流研究会の取り組み

---

2025年6月9日(月)  
SM物流研究会

# 目次

- 01 研究会紹介
- 02 SM物流研究会の成り立ち
- 03 SM物流研究会の活動

# 1. 研究会紹介

---

## ■ SM物流研究会 概要

名称	<b>SM物流研究会</b>
設立	<b>2023年10月18日</b>
座長	株式会社ライフコーポレーション 首都圏PC・物流本部 本部長 渋谷 剛
参加企業数	<b>20社</b>
会議場所	一般社団法人 日本スーパーマーケット協会 会議室
会議回数	毎月1回実施 (8月、12月を除く)



座長を務める  
株式会社ライフコーポレーション  
首都圏PC・物流本部 本部長  
渋谷 剛



SM物流研究会 参加メンバー

## ■ SM物流研究会 目的・沿革

目的	<p>「2024年問題」をはじめとする物流危機を回避し、 地域の生活を支える社会インフラとしての責務を継続して果たすため、 物流分野を各企業間の「競争領域」ではなく「協力領域」と捉えて、 各社の協力による物流効率化策を研究・検討する</p>
沿革	<p>2023年3月16日、「サミット」、「マルエツ」、「ヤオコー」、「ライフコーポレーション」の4社は、 「持続可能な食品物流に向けた取り組み」を宣言後、物流分野を「競争領域」ではなく「協力領域」と考え、 各社協力による物流効率化策、またサプライチェーン全体の効率化につながる施策を検討するために 「首都圏SM物流研究会」を発足し、活動を開始</p> <p><u>首都圏・北陸・関西エリアの企業参加があり、現在は、研究会を「全体会」(「SM物流研究会」と「エリア部会」(「首都圏SM物流研究会」・「関西SM物流研究会」)の3体制に分けて活動している</u></p> <p>※「SM物流研究会」では、『縦の取り組み』として、サプライチェーン全体の物流効率化(製・配・販の連携)を行い、 「首都圏SM物流研究会」・「関西SM物流研究会」では、『横の取り組み』として、 各エリアSMの物流効率化(小売業の連携)を行っている</p>

# ■ SM物流研究会 現体制

## 首都圏SM物流研究会

- ①目的  
首都圏エリアの物流効率化
- ②参加企業  
SM物流研究会  
首都圏・北陸の企業
- ③座長  
サミット株式会社  
武田 哲志
- ④開催頻度  
1カ月に1回の開催

## SM物流研究会

- ①目的  
サプライチェーン全体の効率化
- ②参加企業  
SM物流研究会の参加企業全社
- ③座長  
株式会社ライフコーポレーション  
渋谷 剛
- ④開催頻度  
3カ月に1回の開催

## 関西SM物流研究会

- ①目的  
関西エリアの物流効率化
- ②参加企業  
SM物流研究会  
関西の企業が参加
- ③座長  
株式会社平和堂  
財田 晃
- ④開催頻度  
1カ月に1回の開催

### 主な活動内容

#### 4つの分科会活動を推進

パレット納品の拡大  
共同配送 空きトラックの有効活用  
チルド物流における物流課題解決  
生鮮物流における物流課題解決

サプライチェーン全体(製・配・販)に  
関する物流課題を協議

関西エリアの物流課題を研究  
物流の効率化(センター見学)  
共同配送 空きトラックの検討  
荷待ち・荷役作業等時間の削減  
新規参加企業の勧誘

各研究会の活動共有

## ■ SM物流研究会の新規参加条件

項目	新規参加条件
「持続可能な食品物流に向けた取り組み宣言」4項目	<p><b>①加工食品における定番商品の発注時間の見直し</b></p> <p>・12時までに卸が発注データを受信できる状態(TCの場合、店舗納品日の前日12時までに卸が発注データを受信できる状態)。最終目標は、店舗納品1日前の12時までに卸が受信できる状態</p>
	<p><b>②特売品・新商品における発注・納品リードタイムの確保</b></p> <p>・特売・新商品の発注を6営業日前(8日前)までに行い、リードタイムを確保する</p>
	<p><b>③納品期限の緩和(1/2ルールの採用)</b></p> <p>・賞味期間180日以上加工食品は、「1/2ルール」を採用する採用率100%</p>
	<p><b>④流通BMSによる業務効率化</b></p> <p>・卸売業と小売業間の受発注方式における標準化EDI「流通BMS」を導入・活用</p>
その他の条件	<p><b>⑤「バース予約システムの導入」</b></p>
	<p><b>⑥「パレット納品の推奨」</b></p>
	<p><b>⑦「トップコミットメント」</b></p>

※上記、7つの取り組みを求めています。①～⑥は実施予定があることを最低限の条件としていますが、**⑦「トップコミットメント」は必須**となります。

## ■ 首都圏SM物流研究会

目的	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 首都圏・北陸エリアの物流情報を共有(物流の取り組み・課題を共有し、解決策を模索)</li><li>2. 首都圏・北陸エリアの物流効率化(共同配送など)</li><li>3. 首都圏・北陸エリアの新規参加企業の勧誘(物流の仲間の輪を広げる)</li></ol>
参加企業	サミット、マルエツ、ヤオコー、ライフコーポレーション(首都圏)、西友、カスミ、いなげや、原信、ナルス、東急ストア、エコス、たいらや、マスダ、与野フードセンター、イトーヨーカ堂、ベイシア 合計16社
開催場所	日本スーパーマーケット協会の会議室もしくは各社のセンターで実施
活動	<ul style="list-style-type: none"><li>・分科会の取り組みを推進</li><li>①パレット納品の拡大</li><li>②共同配送、空きトラックの有効活用</li><li>③チルド物流における物流課題解決</li><li>④生鮮物流における物流課題解決</li></ul>

## ■ 関西SM物流研究会

目的	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 関西エリアの物流情報を共有(物流の取り組み・課題を共有し、解決策を模索)</li><li>2. 関西エリアの物流効率化(共同配送など)</li><li>3. 関西エリアに特化した新規参加企業の勧誘(物流の仲間の輪を広げる)</li></ol>
参加企業	オークワ、平和堂、万代、ライフコーポレーション(近畿圏)、マルアイ 合計5社
初回開催日	2025年2月20日(木)
開催場所	各社の本社もしくは各社のセンターで実施
当面の議題	<ul style="list-style-type: none"><li>・物流の効率化(各社のセンター見学を行いながら、取り組みを共有)</li><li>・共同配送の検討(分科会での取り組みを参考にしながら推進)</li><li>・荷待ち・荷役作業等時間の削減(特に荷役作業の削減)</li></ul>

## 2. SM物流研究会の成り立ち

---

## ■「4社物流協議会」から現在に至るまで

- 
- 2022年 4月
- フードサプライチェーン・サステナビリティプロジェクト(FSP)開始
    - ・ 製・配・販の各団体が参画、持続可能な加工食品物流構築に向けて課題や実態を情報共有、**サプライチェーン全体の最適化**に向けた取り組みを検討
- 8月
- **4社物流協議会 開始**
    - ・ 日本スーパーマーケット協会の首都圏で営業している正副会長企業4社が協議
- 2023年 3月
- **「持続可能な食品物流に向けた取り組みに関する宣言」**
    - ・ 「首都圏SM物流研究会」発足(サミット、マルエツ、ヤオコー、ライフコーポレーション)
- 10月
- **「SM物流研究会」発足(10社体制)**
    - ・ 首都圏以外の参加企業もあり、研究会の活動規模を拡大「SM物流研究会」、「首都圏SM物流研究会」の二部制に変更
- 2024年 4月
- **4つの分科会を発足して、物流課題に取り組む(15社体制)**
    - ・ 「パレット納品の拡大」、「共同配送、空きトラックの有効活用」  
「生鮮物流における物流課題の解決」、「チルド物流における物流課題の解決」
- 12月
- **「関西SM物流研究会」発足(オークワ、平和堂、万代、ライフコーポレーション)**
- 2025年 3月
- **「SM物流研究会」20社体制**

## ■ 首都圏SM物流研究会・関西SM物流研究会の発足



### ・「首都圏SM物流研究会」発足

・持続可能な食品物流に向けた取り組みに関する発表

2023年3月16日に記者発表会を開催

(報道関係 約50社)



### ・「関西SM物流研究会」発足

・発足目的、当面の議題などを発表

2024年12月20日に記者発表会を開催

(報道関係 約50社) ※オンライン含む

## ■ 参加企業(20社)

・2023年 5月 (株)西友と(株)カスミがメンバーに加わり、6社に



・2023年 10月 (株)いなげや、(株)原信、(株)ナルス、(株)東急ストアがメンバーに加わり、10社に



・2024年 3月 (株)平和堂、(株)エコス、(株)たいらや、(株)マスダ、(株)与野フードセンターがメンバーに加わり、15社に



## ■ 参加企業(20社)

・2024年 5月 (株)イトーヨーカ堂がメンバーに加わり、16社に



・2024年 9月 (株)ベイシアがメンバーに加わり、17社に



・2024年 10月 (株)万代、(株)オークワがメンバーに加わり、19社に



・2025年 3月 (株)マルアイがメンバーに加わり、20社に



## ■ 参加企業(20社)



物流の仲間の輪を広げたい  
新規参加企業 募集中

### 3. SM物流研究会の活動報告

---

## ■ 持続可能な食品物流に向けた取り組みの経緯

### ◆ 物流分野の現状

- ・トラックドライバーの不足（厳しい労働環境と全産業平均を下回る収入状況）
- ・需要の増加（EC市場の拡大、消費者ニーズ多様化による多品種・小ロット輸送増加）
- ・更なる供給制限のおそれ（2024年度から働き方改革関連法施行）

⇒ **食品物流における従来型の発注から納品までの工程維持が困難になりつつある**



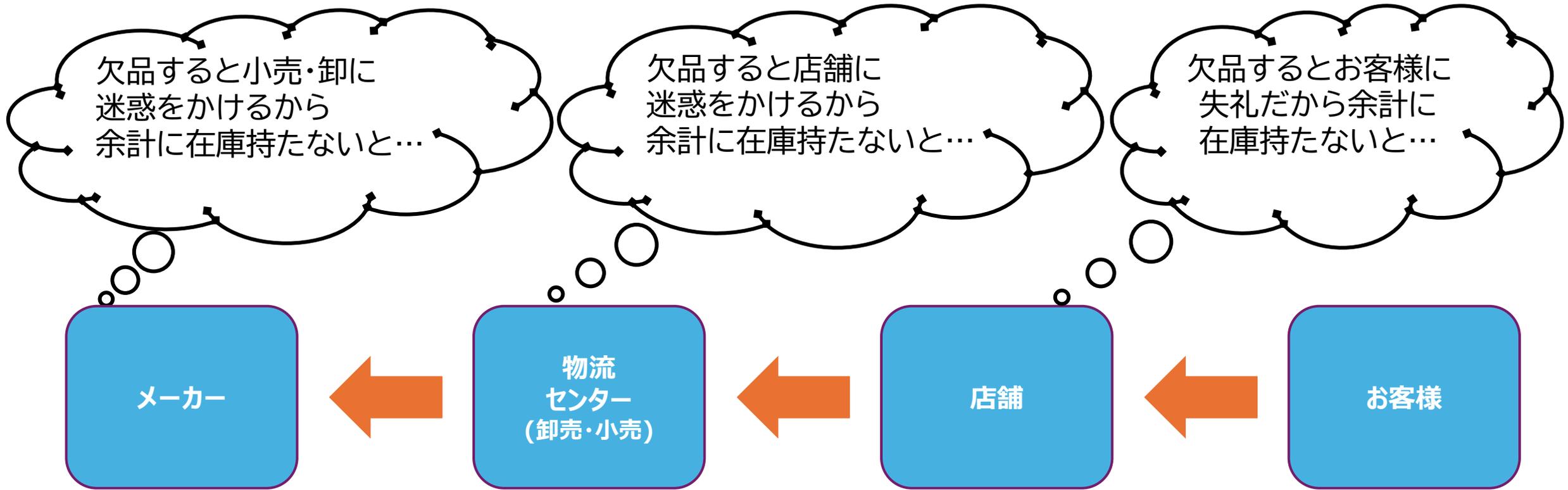
### ◆ 行政における取り組み

- ・「物流施策大綱」
- ・「荷主と運送事業者の協力による取引環境と長時間労働の改善に向けたガイドライン（加工食品、飲料・酒物流編）」

### ◆ フードサプライチェーン・サステナビリティプロジェクト(以下、「FSP」)

- ・製・配・販の各団体が参画し、2022年4月発足
- ・持続可能な加工食品物流構築に向けて課題や実態を情報共有
- ・サプライチェーン全体の最適化に向けた取り組みを検討
- ・検討課題 **①定番商品における発注時間の見直し**  
**②特売品・新商品におけるリードタイムの確保および計画発注化**  
**③納品期限の緩和(2分の1ルール)**

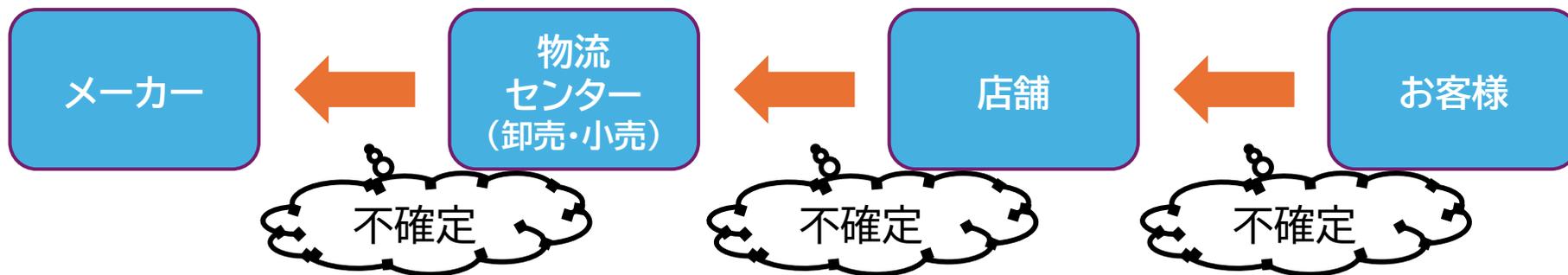
## ■ 非効率なことが発生する要因



➤ 川下からひとつ川上に向かっての思いやりの連続が原因

## ■ 非効率なことを発生させないためには

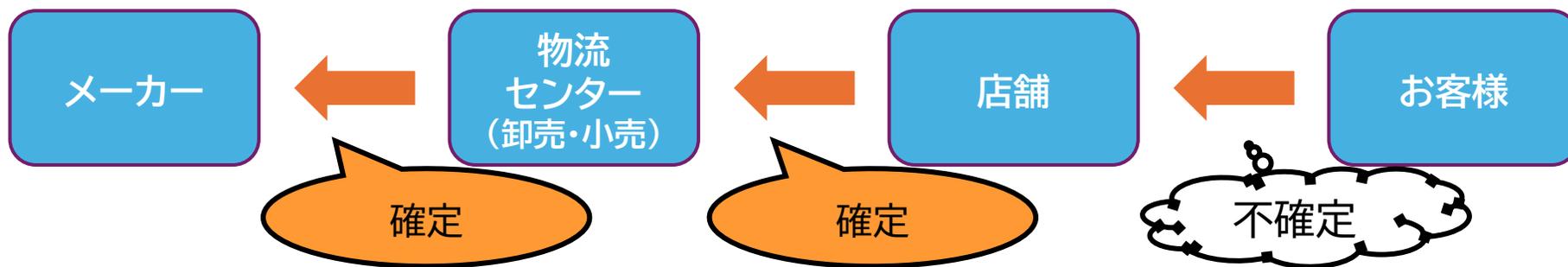
### 改善前 部分最適



➤ 不確定要素が多く在庫が増加 = 効率の悪化



### 改善後 全体最適を目指す



➤ 確定で商品を動かすので在庫が減少 = 効率の改善

## ■ 全体最適で効率の改善を目指す方法(具体的な取り組み)

全体最適のために、小売で必要な取り組みを製・配・販で協議

以下の4つの項目について、取り組むことが必要

➤ 商品を確定数で運んで中間在庫を減らすために…

1.加工食品における定番商品の発注時間の見直し

2.特売品・新商品における発注・納品リードタイムの確保

➤ 減った在庫で食品ロスをさらに減らすために…

3.納品期限の緩和 1/2ルールを採用

➤ 上記をさらに効率化するために…

4.流通BMSによる業務効率化

## ■ 持続可能な食品物流に向けた取り組み宣言

「首都圏SM物流研究会」の発足とあわせて、4つの項目に取り組むことを宣言

### 「持続可能な食品物流に向けた取り組み宣言」

#### 1. 加工食品における定番商品の発注時間の見直し

加工食品における定番商品の店舗発注時間を前倒し

→お取引先様の夜間作業の削減および調整作業時間確保の実現

#### 2. 特売品・新商品における発注・納品リードタイムの確保

特売品・新商品の計画発注化を進める

確定した発注データをもとに商品や車両の手配ができる環境を整備

→緊急手配等の作業負担軽減、積載効率および実車率の向上

#### 3. 納品期限の緩和(1/2ルールの採用)

180日以上賞味期間の加工食品における「1/2ルール」採用

→商品管理業務の負担軽減による食品物流効率化への貢献

#### 4. 流通BMSによる業務効率化

卸売業と小売業間の受発注方式における標準化された流通BMSの導入

→高速通信による作業時間確保、伝票レス・検品レスによる業務効率化

# ■ 加工食品における定番商品の発注時間の見直し

## 現状の運用

現状	1日目		2日目		3日目	
	AM	PM	AM	PM	AM	PM
小売		発注		発注		
卸売		受注		受注		
メーカー	発注		入荷【予測2回分】			
	受注	→		↑		

## 製・配・販連携のアクション

アクション	1日目		2日目		3日目	
	AM	PM	AM	PM	AM	PM
発注締め時間調整						
小売	発注		発注		発注	
卸売	受注		受注		受注	
メーカー	後倒し	発注			入荷【予測2回分】	
	受注	→		↑		

- 取り組みによる効果**
- 作業・調整時間の確保、夜間作業の削減
  - 安定的な車両確保
  - 積載効率の向上

## 課題

- 出荷準備に必要な時間が十分ではない
- 翌日納品に向けて夜間作業が発生
- 低い積載率で運ばざるを得ない場合がある
- トラックドライバー不足が加速すると、安定的な納品が困難になるリスク

## 製・配・販 3層間の最適化・課題解決に向けた取り組み

- 小売→卸売の発注締め時間を前倒し**  
午前中までに卸売が発注データを受信できるように発注時間を見直し  
小売は、伴う業務運営やシステムなどを調整
- 卸売→メーカー間は、発注締め時間を後ろ倒し**  
納品リードタイムを延長(1日→2日)

図の出典:FSP提供資料より

# ■ 特売品・新商品における発注・納品リードタイムの確保

## 課題

リードタイムの確保が十分でない場合、予測数量での配車、出荷準備に係る夜間作業などが発生

卸・メーカー 営業日	D-3	D-2	D-1	伝票日付
				D0
小売	発注		センター 納品	店舗納品
卸売	受注 発注		入荷・集荷・ 出荷・配送	
メーカー		受注	出荷・配送	

納品を間に合わせるため、小売受注を待たずに発注  
→予測がズレると過不足発生

出荷調整業務・配車時間が十分に確保できていない  
→夜間作業や緊急車両が発生

今後トラックドライバー不足が進むと、車両手配も困難に  
→従来型の納品工程が維持できず、商品が店舗に届かない可能性もある

# ■ 特売品・新商品における発注・納品リードタイムの確保

## 課題解決に向けた取り組み

### 特売品および新商品(追加を含む)における6営業日前(8日前)計画発注化

#### 小売の対応

- ・各社の専用センターにおいて、6営業日(8日)以上の発注・納品リードタイムを確保
- ・特売品および新商品における精度の高い計画発注化、追加発注の抑制
- ・新商品(定番外商品)は、追加発注を不可とする

卸・メーカー 営業日	D-6	D-5	D-4	D-3	D-2	D-1	伝票日付
小売	発注					センター納品	店舗納品
卸売	受注	発注		入荷	集荷	出荷・配送	
メーカー		受注			出荷・配送		

営業日6日前(8日前)までに発注

#### 取り組みによる効果

確定数量による発注→過不足のない在庫

#### 取り組みによる効果

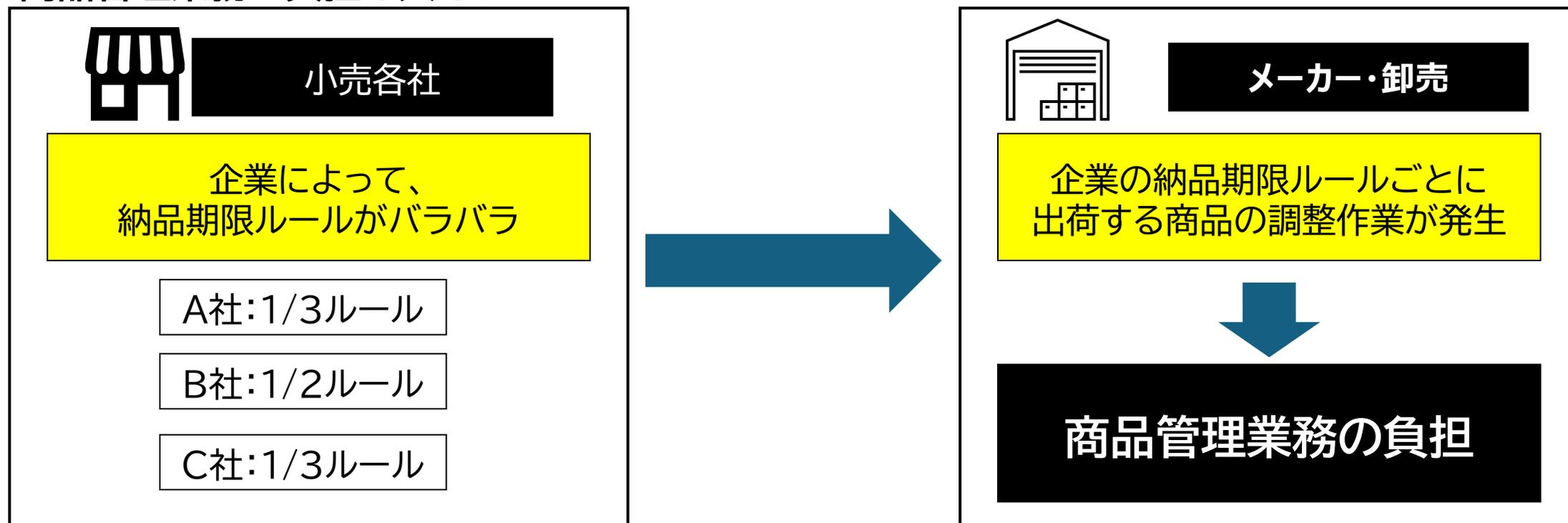
リードタイム確保→出荷準備効率化、夜間作業の削減

## ■ 納品期限の緩和(1/2ルールの採用)について

納品期限ルールとは…小売業が設定する店舗への納品期限。賞味期間を概ね3等分して、最初の3分の1を納品期限とする場合は「3分の1ルール」、2等分して2分の1を納品期限とする場合は「2分の1ルール」

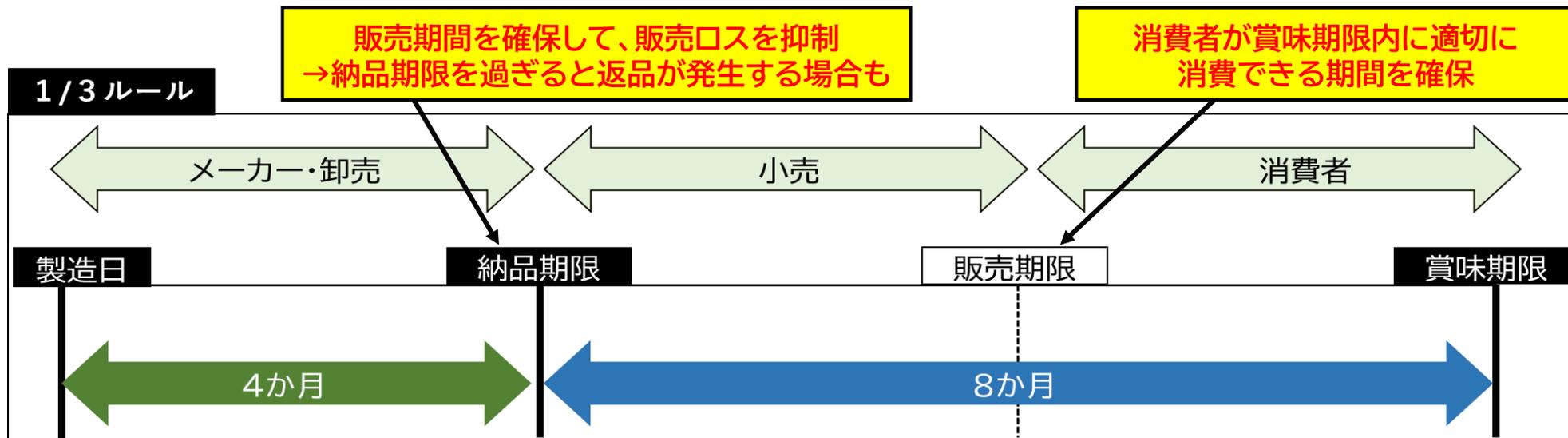
### 課題

小売の納品期限ルールが企業ごとに異なるため、メーカーや卸売の出荷の際に調整作業が発生、商品管理業務の負担も大きい



→賞味期限180日以上加工食品に対する1/2ルールへの統一が必要

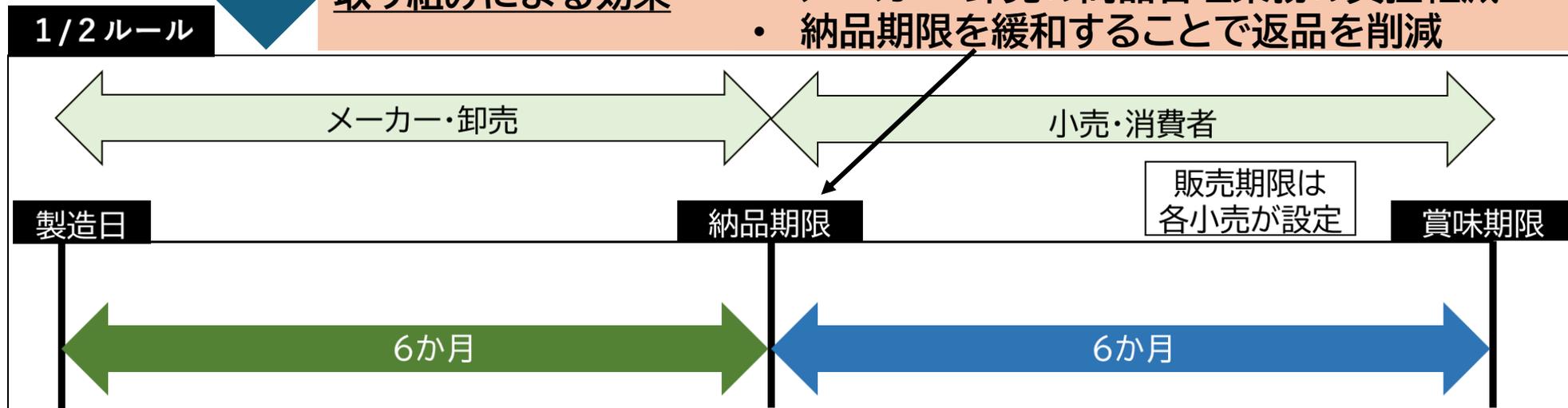
# ■ 納品期限の緩和(1/2ルール)について



小売店舗への納品期限を賞味期限1/2残しに統一  
(賞味期限180日以上加工食品(酒・菓子含む)が対象)

取り組みによる効果

- ・ メーカー・卸売の商品管理業務の負担軽減
- ・ 納品期限を緩和することで返品を削減



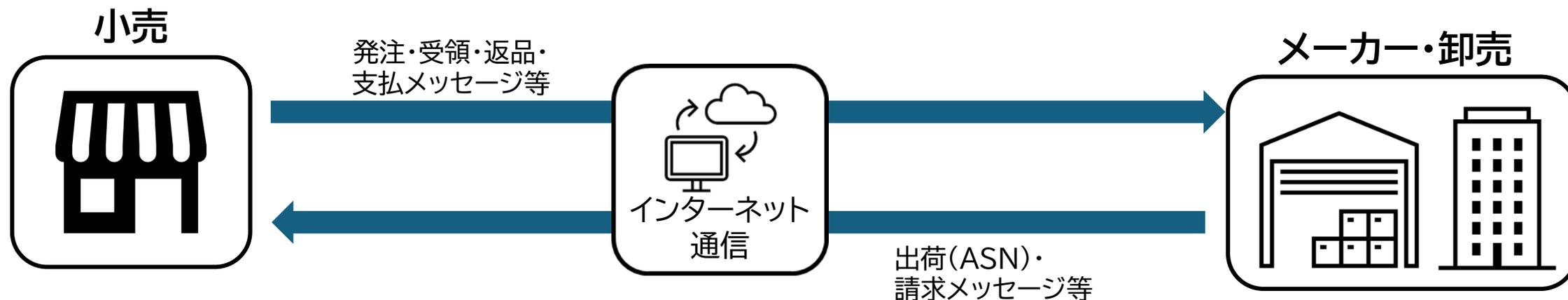
## ■ 流通BMSの推進

### 流通BMS(Business Message Standards:流通ビジネスメッセージ標準)とは

- 流通業界(メーカー、卸売、小売)が統一的に利用できるEDI標準仕様として策定
- 小売と卸売・メーカーの取引における業務手順と電子取引メッセージを標準化し、共通の方法で電子データ交換を実施。インターネット回線を利用した高速通信でデータのやりとりにかかる時間を短縮

### 流通BMS導入の効果

- 通信速度の向上で、従来よりもお取引先様の作業時間を確保
- 伝票レス化、検品レス化による業務効率化を推進



## ■ 各社の取り組み状況（各社参加当初の状況）

社名	加工食品における 定番商品の 発注時間見直し	特売品・新商品 発注・納品 リードタイム確保	納品期限 1/2ルール採用	流通BMS 導入	予約受付 システム 導入・活用	バラ積み 納品の 削減推進	トップ 合意
サミット	○	▲	▲	○	○	○	○
マルエツ	○	○	▲	○	○	○	○
ライフ	○	▲	○	○	○	○	○
ヤオコー	○	▲	○	○	○	○	○
カスミ	○	○	▲	○	▲	○	○
西友	○	○	▲	○	○	○	○
いなげや	▲	○	▲	○	○	○	○
東急ストア	○	○	▲	○	○	○	○
原信・ナルス	○	▲	○	○	○	○	○
平和堂	○	▲	○	○	○	○	○
エコスグループ (参加4社合同)	▲	▲	▲	○	○	○	○
イトーヨーカ堂	○	▲	○	○	○	○	○
ベイシア	○	○	▲	○	○	○	○
万代	○	○	▲	○	○	○	○
オークワ	▲	○	○	○	○	○	○
マルアイ	○	▲	▲	○	○	○	○

▲…サミット、マルエツ、ライフ、ヤオコーは「首都圏SM物流研究会」発足時、その他の企業は、新規参加時に条件を達成していなかった項目。

## ■ 各社の取り組み状況（現在）

社名	加工食品における 定番商品の 発注時間見直し	特売品・新商品 発注・納品 リードタイム確保	納品期限 1/2ルール採用	流通BMS 導入	予約受付 システム 導入・活用	バラ積み 納品の 削減推進	トップ 合意
サミット	○	○	○	○	○	○	○
マルエツ	○	○	○	○	○	○	○
ライフ	○	○	○	○	○	○	○
ヤオコー	○	○	○	○	○	○	○
カスミ	○	○	○	○	○	○	○
西友	○	○	○	○	○	○	○
いなげや	○	○	○	○	○	○	○
東急ストア	○	○	○	○	○	○	○
原信・ナルス	○	○	○	○	○	○	○
平和堂	○	○	○	○	○	○	○
エコスグループ (参加4社合同)	○	○	○	○	○	○	○
イトーヨーカ堂	○	○	○	○	○	○	○
ベイシア	○	○	○	○	○	○	○
万代	○	○	○	○	○	○	○
オークワ	変更に向けて調整中	○	○	○	○	○	○
マルアイ	○	変更に向けて調整中	○	○	○	○	○

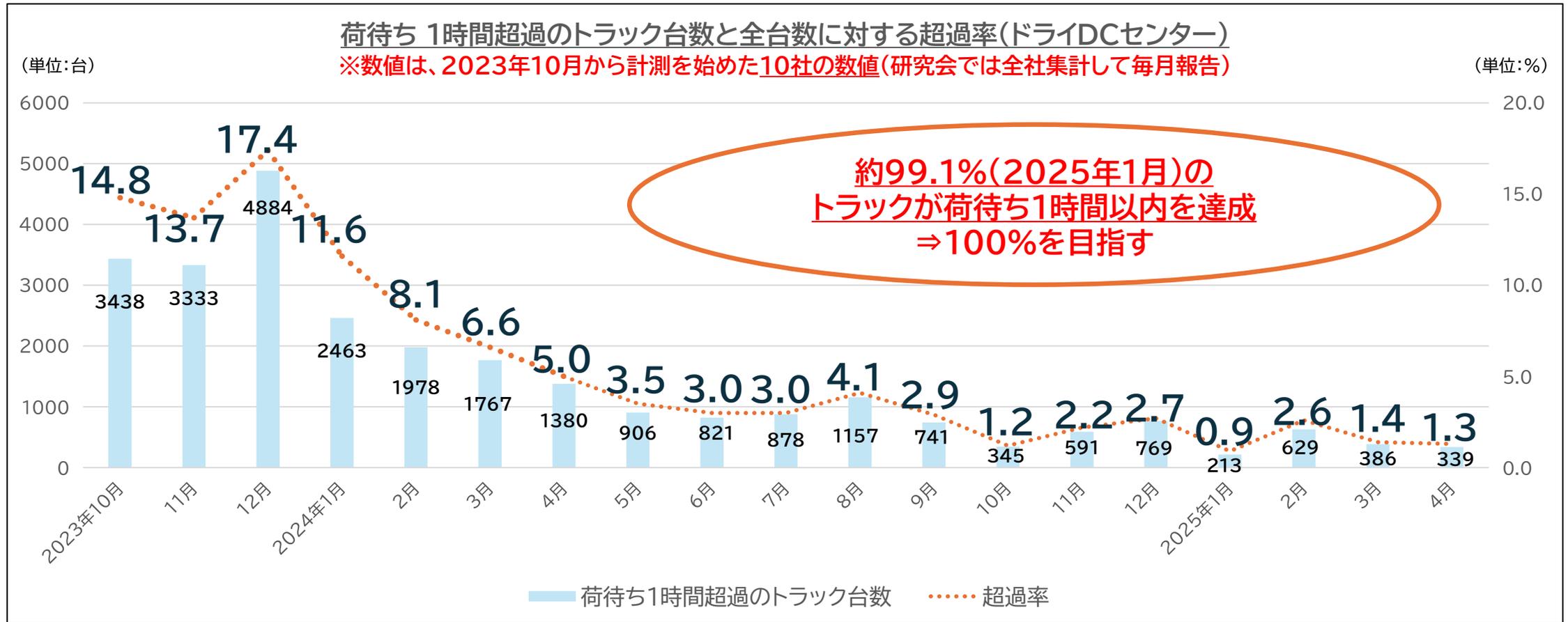
## ■ 2023年度の取り組み

- ①2023年6月に発出されたガイドラインに「荷待ち・荷役作業等時間2時間以内」が  
明文化、入荷待機時間の削減はもう「待ったなし！」の状況  
緊急度、優先度から「入荷待機時間の削減」をメーカー・卸・小売(製・配・販)で  
連携して取り組むことを研究会で決定
- ②2024年3月末までには「全車両の荷待ち1時間以内」を目標値」に設定  
具体的には、バース予約システムの導入と活用、パレット納品の拡大、  
ドライバーの荷役作業の明確化に取り組んだ



**2024年度も継続して取り組む**

# ■ 荷待ち時間の計測状況

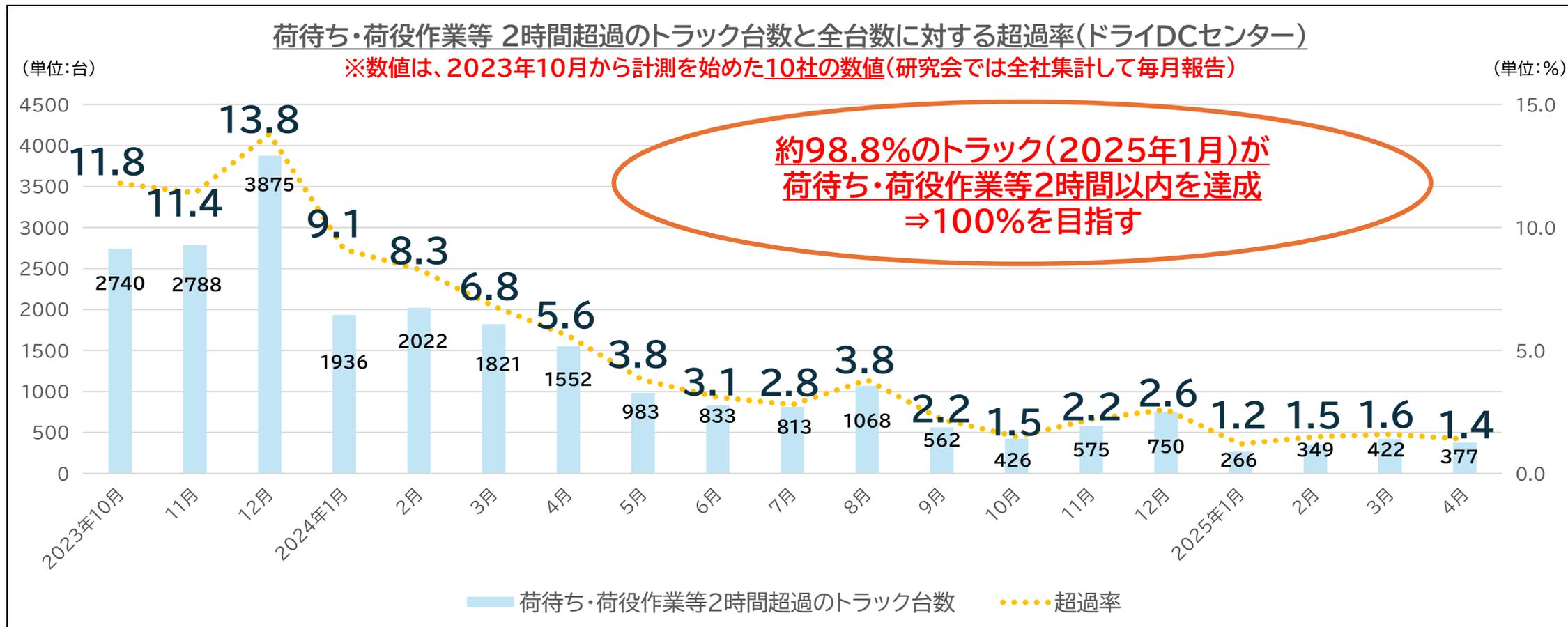


※2025年4月 20社集計 荷待ち 1時間超過のトラック台数 895台(全台数に対する超過率1.9%)

## バース予約率の向上

⇒入荷トラックの状況把握(積載物・バラ・パレットなど)が可能となり、  
 物流センターでの受入れ体制が構築できる(荷待ち・荷役作業等時間の削減に繋がる)

# ■ 荷待ち・荷役作業等時間の計測状況



※2025年4月 20社集計 荷待ち・荷役作業等 2時間超過のトラック台数 1,567台(全台数に対する超過率3.3%)

## 「バラ積み」から「パレット積み」への移行を推進

⇒製・配・販で意見交換を行い、全体最適を目指す

※今までは、ドライDCセンターを中心に計測していたが、ドライTCセンターの計測も行う  
 最終的にはチルドセンター、生鮮センターの計測に向けて準備

## ■ 2024年度の取り組み

- ① SM間で**共同配送**や各社の空き車両の有効活用の取り組みを進める
- ② **生鮮**(農産物・水産物)、**チルド加工食品**(乳業メーカー、加工肉メーカー)における物流課題を先方と一緒に改善していく  
※加工食品の取り組み同様、「相手の困り事を理解し、一緒に改善していく」
- ③ **商品マスタ標準化**に向けた取り組みを進める



**新規の取り組みをスピード感をもって進めるため**

**各取り組みごとに分科会を設置**

# ■ 勉強会・意見交換会

## 2024年 勉強会・意見交換会

研究会では、定期的な勉強会・意見交換会を行い、物流課題の解決に取り組んでいる

実施月	内容	今後
1月	商品マスタ標準化の取り組みについての勉強会	研究課題として、継続的に取り組む  今後も定期的な意見交換を行う  課題のある項目は、随時、研究会での議題として協議する
	青果物流についての意見交換会	
2月	バラ積み納品削減に向けた意見交換会(即席麺メーカー)	
	チルド加工食品物流についての意見交換会	
4月	バラ積み納品削減に向けた意見交換会(菓子メーカー)	
	チルド加工食品物流についての意見交換会(2回目)	
5月	青果物流についての意見交換会(2回目)	
7月	バラ積み納品削減に向けた意見交換会(即席麺メーカー2回目)	
9月	バラ積み納品削減に向けた意見交換会(菓子メーカー2回目)	
	バラ積み納品削減に向けた意見交換会(即席麺メーカー3回目)	
11月	チルド物流研究会との意見交換会	
11月	「中四国物流研究会」との意見交換	今後も定期的な意見交換を予定

## ■ 分科会の発足

今年度の主な取り組みは、以下の4点である

スピード感をもって取り組みを進めるため、取り組み項目別に

グループ分けして検討を進め、「研究会で全体共有→検討・決定→実行」を行う

No.	取り組み項目	担当企業
1	<u>パレット納品の拡大</u>	マルエツ、ライフ、原信・ナルス
2	<u>共同配送、空きトラックの有効活用</u>	カスミ、西友、ベイシア
3	<u>生鮮物流における物流課題の解決</u>	サミット、東急ストア、イトーヨーカ堂
4	<u>チルド物流における物流課題の解決</u>	ヤオコー、いなげや、エコスグループ

## ■ 分科会の取り組み

分科会	取り組み内容
パレット納品の拡大	<p>即席麺、菓子メーカーとの意見交換において各社物流センターの荷役作業実態(バラ積み納品による荷役作業の長時間化)を提示し、危機感を共有。また、メーカーから「パレット納品に向けた卸、小売への要望事項」を提示してもらい、一部メーカーで特売等物量が多い日のパレット納品化までは実現。</p>
共同配送、空きトラックの有効活用	<p>現在、加工肉メーカーの配送ルート、配車車両の積載余力に着目した共配可能性について、発着荷主と運送事業者が連携し仮説案を検証中。最初の成功事例の実現に向けて、製・配・販の三層連携の知見を積み上げている。</p>
生鮮物流における物流課題の解決	<p>サプライチェーンが複雑な青果をテーマに「市場流通ビジョンを考える会」と「卸売市場・SM物流研究会」を発足し、勉強会を実施。市場流通の実態整理・共通理解と課題の洗出しに取り組み、それぞれの課題の根本原因と解決策について協議。協議を進める中で重要性が強く認識されつつある、LT延長をサミット、東急ストアで開始し、効果を定量、定性の両面から検証中。</p> <p>※「市場流通ビジョンを考える会」(代表幹事 磯村信夫)…2008年に青果、花き、水産市場卸や仲卸等により設立された組織。市場流通の改善方策や長期ビジョンの協議・検討を通じて、卸売市場の機能強化や国民生活と産地の発展・向上に寄与することを目的としている。(現在93企業が加盟)</p>
チルド物流における物流課題の解決	<p>運送事業者様や卸様のヒヤリング会を実施。各チルドセンターでの窓口、軒先情報の整備。チルド物流研究会との対話。</p>



**製・配・販で全体最適を目指す**

## ■ 生鮮物流・チルド物流の共通課題

### 生鮮物流における物流課題※1

- 生鮮品のリードタイムと発注時間の見直し  
受注から納品までのリードタイムの現状と見直し  
(定番商品・特売商品)  
発注時間帯と発送・納品時間帯の現状と見直し  
(運送を考慮した出荷予定時刻等の設定など)
- 生鮮品の検品と返品のリール確立  
検品ルール(品目別検品方法、検品時間など)、  
返品ルール(品目別瑕疵の程度、返品可能日数など)
- 物流コストの可視化(コスト算出方法の明示)

### チルド物流における物流課題※2

- 納品リードタイム延長、新商品、特売品の事前発注化、  
納品時間帯の緩和、店別仕分作業、365日納品、  
発注単位の見直し、納品期限(納入限度日)の延長など
- トラックドライバーの付帯作業削減  
ドライバーの店別仕分作業、庫内積み替え・移動作業、  
フォークリフト作業の見直しなど
- 輸配送効率化(共同配送の推進など)
- 標準化、システム導入による効率化パレット運用の  
推進など

※1 SM物流研究会と「市場流通ビジョンを考える会」との意見交換会から抜粋

※2 「チルド物流研究会」(チルドメーカー9社)のニュースリリース(取組課題)から抜粋(2024年10月7日)



生鮮物流・チルド物流では  
「リードタイム」の見直し、延長が共通課題

## ■ 分科会の今後の取り組み

分科会	今後の取り組み
パレット納品の拡大	<p><u>分科会3社でメーカー個社とパレット納品化への交渉を進める。</u></p> <p>※研究会参加企業からパレット納品化の要望が高い(荷役作業が長時間化)メーカーと重点的に交渉。</p>
共同配送、空きトラックの有効活用	<p><u>各社の共通採用商品に着目した共配可能性も検討する。</u></p> <p>情報連携システムの研究もスタートする。</p>
生鮮物流における物流課題の解決	<p><u>引き続き青果を取り上げ、2024年度の取り組み継続に加え、「市場流通ビジョンを考える会」との会議に参加していない全農や仲卸の参加も検討し、範囲を広げ課題解決に繋がる基準づくりに取り組む。</u>水産、畜産についてもSM物流研究会参加企業や取引先の状況を随時確認し、対応を検討。</p>
チルド物流における物流課題の解決	<p><u>チルド物流研究会との課題共有と対応。</u></p> <p>チルド版FSP(「物流の適正化・生産性向上に向けた荷主事業者・物流事業者の取組に関するガイドライン」対応の「チルド食品業界製配販行動指針」)の作成。</p>

## ■ 関西SM物流研究会の活動状況

発足目的	活動状況
<p>関西エリアの 物流情報を共有</p>	<p><b>センター構造・運用、マテハン仕器などの確認を行い、意見交換を実施。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフ平林総合物流センターの見学、意見交換 (2025年2月20日 第1回関西SM物流研究会)</li> <li>・万代堺物流センターの見学、意見交換 (2025年4月18日 第2回関西SM物流研究会)</li> </ul> 
<p>関西エリアの 物流効率化</p>	<p><b>「荷役作業等時間の削減」が課題との共通認識(その他課題も議論中)。</b></p> <p>各社に取り組み優先事項のアンケートを行い、議論を重ねる。 ※課題解決に向けて、第3回関西SM物流研究会(2025年5月22日)では、物流事業者との意見交換を行った。</p>
<p>関西エリアに 特化した新規参加 企業の勧誘</p>	<p><b>株式会社マルアイが2025年3月から参加。</b></p> <p>「関西SM物流研究会」発足の記者発表会(2024年12月)をきっかけにして、株式会社マルアイから事務局に参加希望の連絡があった。 その後、SM物流研究会、関西SM物流研究会の見学、参加企業条件の確認を行った。</p>

## ■ 2025年度 取り組み方針

1. 荷待ち・荷役作業等時間の削減ならびに  
「改正物流効率化法」の施行に合わせた対応
2. 4つの分科会※の取り組みを継続して推進  
※「パレット納品の拡大」、「共同配送」、「生鮮物流」、「チルド物流」)
3. 関西エリアでの物流課題を研究し、課題解決に取り組む

# 最後に



物流は「競争領域」から「協力領域」へ



# SM物流研究会

ご清聴ありがとうございました